



広域行政交流拠点の形成

既存の国・県・市の行政機能と合同庁舎からなる広域行政交流拠点を形成し、効率的な行政サービスの提供や連携のとれた行政活動を行う、来訪者にやさしい行政サービス拠点とする。

また、アクセシビリティを確保する等バリアフリーへの先導的な取り組みを行うとともに、意匠においても「高山らしい」伝統を感じることでできる景観形成を行っていく。

市民交流・生活支援拠点の形成

高山市民文化会館と交流センター 交流広場を中心に、市民や圏民、観光客が多様な文化活動 イベントに集う市民交流拠点を形成する。また、既存の福祉センターを中心に、民間の福祉サービスや生活支援型商業の集積を図り、利便性の高い定住支援を行う福祉サービスの拠点を形成する。

文化活動から生活支援まで幅広い交流によって、多様な人々が集う新しい都市核となることから、市民に息づく伝統を未来に継承していくまちづくりを行う。

観光交流拠点の形成

来訪者を迎え、送り出す役割を担う玄関口として、JR高山駅を中心に交通結節点機能の向上を図るとともに、市民や来訪者にとって快適で利用しやすい観光交流拠点を形成し、本市の観光の大きなテーマである伝統的な文化歴史を感じることのできるまちづくりを行う。

また、飛騨圏域の玄関口であり、圏域の観光情報の提供や物産のPR等を行う広域観光の拠点としての機能に配慮する。

シビックコア地区の整備目標

- 都市核の形成と中心市街地機能の強化
- 行政機能の集約化による利用者サービスと行政活動の向上
- 文化・福祉などの市民活動拠点の形成
- 駐車場と歩行者空間整備による歩行者流動の創出
- 都市環境形成のモデルとなる高山らしい都市の顔の形成

シビックコア地区のテーマ

新しいまちに伝統が息づく交流拠点づくり

至 東海北陸自動車道IC. 国道158号

至 名古屋

至 松本・安房トンネル